

SSG7 V

ユーザーマニュアル

Version 1.0.0

Studio Major7th

(C) 2022 Studio Major7th

SSG7V をご利用頂きありがとうございます。
こちらは SSG7V のマニュアルです。

SSG7V は Windows 版 VST3 の 64bit 版です。
32bit 版では動作いたしません。

SSG7V は、商用利用可能です。
しかし、二次配布等は禁じられております。

SSG7V は制作されてまだ日が浅いものです。プログラムの経験の浅いものが制作しておりますので、安定性にはまだ自信を持っておりません。SSG7V を使用、または購入された方は、ソフトの安定性がまだ保証されていないことに同意して使用、または購入したものとさせていただきます。

ルールを守って楽しい音楽活動にしましょう。

Studio Major7th

インストール方法

同梱の「SSG7V.vst3」を、ご使用の PC の **VST3 フォルダにコピー**してください。DAW を立ち上げると、VSTi として読み込まれるはずですが。

アンインストールする場合は、最初にダウンロードしたファイアー式と、「C:¥User¥{ユーザー}¥Documents¥Studio Major7th¥SSG7V」ディレクトリを削除するだけです。

(注意)

ご使用の DAW が、64bit VST3 に対応しているかご確認ください。

インストールは、VST3 のディレクトリにファイルをコピーするだけですので、インストールについてはサポート対象外とさせていただきます。

SSG7 V GUI

SSG7V には4つの GUI があります。

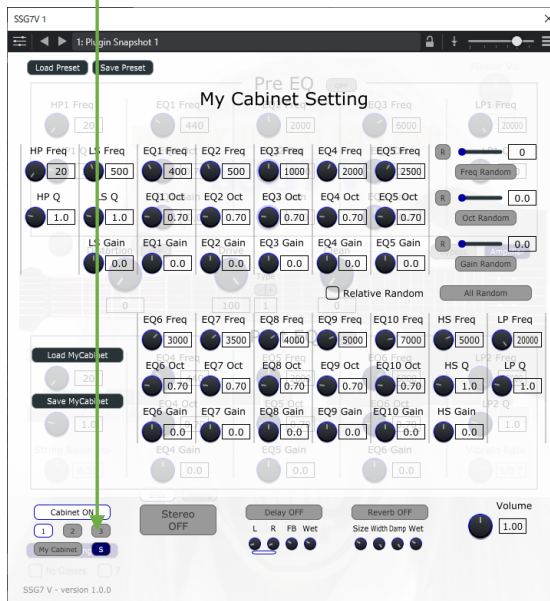
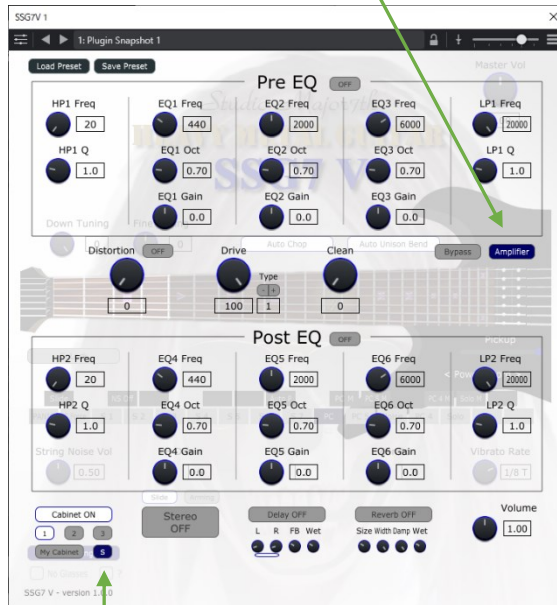
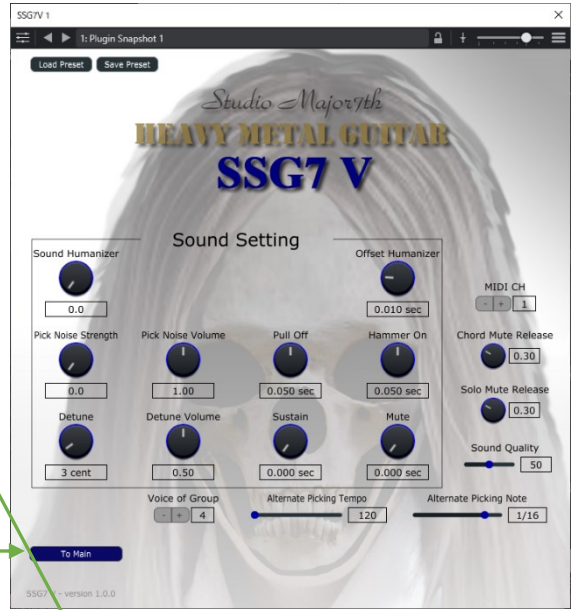
1つは「**Main**」。

2つ目は「**Setting**」。

3つ目は「**Amplifier**」です。

4つ目は「**My Cabinet Setting**」です。

Main は最初に表示される画面、**Setting** は左下の青いボタンで表示できます。**Amplifier** は中段右の青いボタン。**My Cabinet Setting** は、Amplifier 画面の下の方の、My Cabinet ボタンの右の青い S ボタンです。



GUI の設定方法

Main 画面には、SSG7V の操作に関わるパラメーターと、演奏している音が目でわかるようにフレットボードが配置されています。

Setting 画面では、音の細かい設定ができます。

Amplifier 画面では、演奏される音を歪ませたり、イコライザーをかけたり、加工することができます。

My Cabinet Setting 画面では、14 個のイコライザーを操作して、自分の好みの音を作り上げることができます。

これらの設定は、画面左上の、Load Preset と Save Preset で読み込みと保存ができます。

また、Cabinet の設定のみの読み込みと保存も、My Cabinet Setting 画面でできます。

Main 画面

Main 画面では、上から、**Master Volume**、**Down Tuning**、**Fine Tuning**、**Auto Chop**、**Auto Unison Bend**、**Amplifier**、フレットボード表示、**SoLock**、**Pickup**、**キースイッチ表示**、**String Noise Volume**、**PB Down**、**PB Up**、**Vibrato**、**Vibrato Rate**、**Slide Arming** ボタン、最後に **Setting** 画面へのボタンがあります。

Master Volume は SSG7V の最終的なボリュームを調節できます。

Down Tuning は、音源全体のピッチを半音単位で 7 半音下まで下げることができます。

Fine Tuning は、半音の 100 分の 1 の細かいピッチを調節できます。

Auto Chop は、ON にしておくと、ベロシティによって自動で Chop 奏法が入力されます。

Auto Unison Bend は、ON にしておくと、キーを 2 つ同時に押すことで、ユニゾンチョーキングができます。

Amplifier は別画面へ移動し、音の加工を行います。後で説明いたします。

フレットボード表示は、現在選択されているフレットや弦を表示したり、演奏中のフレットをXで表示します。

SoLock は、ON にすると、ソロサウンドとノイズサウンドのキースイッチのみが有効になります。

Pickup は、左に移動するとフロントピックアップ、右に移動するとリアピックアップをシミュレートします。

キースイッチ表示は、現在選択されているキースイッチ等を表示します。

String Noise Volume は、キーオフ時に鳴るノイズ音のボリュームを調節します。

PB Down と **Up** はピッチベンド操作の音程を調節します。

Vibrato は、モジュレーションホイールやアフタータッチによるビブラート時の音程を調節します。

Vibrato Rate は、ビブラートの速さを調節します。

Slide Arming は、どちらか一方を選択できます。Slide を選んだ場合はピッチベンドダウン時に弦をスライドするように、階段状に音程が変化します。Arming の場合は滑らかに変化します。

Setting ボタンは、さらに細かい調節をする画面に移動します。

Setting 画面

Setting 画面は、音を操作する、**Sound Setting**、ミュートサウンドのリリースタイムを調節する **Chord Mute Release** と **Solo Mute Release**、音の処理の増減で音のクオリティを操作する **Sound Quality**、同時発音数を設定する **Voice of Group**、オルタネイトピッキングのテンポ **AlterNate Picking Tempo**、オルタネイトピッキングの音符 **Alternate Picking Note**、があります。

Sound Setting ではオフセットやボリュームを調節して、音色を操作します。左上の **Sound Humanizer** は、様々な設定をランダムで動かします。右上の **Offset Humanizer** は、前後に再生タイミングをランダムにずらします。

Release ノブ は、絶対値ではなく、あらかじめ決められているリリースタイムを調節します、1.00 を 100%とします。

Sound Quality は、値を上げると処理が重くなりますが音色がきれいになります。逆に下げると音色が粗くなります。大きな変化はないので 50 のままでよいでしょう。

Voice of Group は、各弦ずつの同時発音数ですが、あまり大きくすると処理速度が追いつかず、ノイズが発生したり、最悪時にはクラッシュする

場合もあります。小さすぎると同時発音数が足りずにノイズが発生することがあります。丁度よい値を探ってみてください。(4~8くらいがお勧めです。)

Alternate Picking Tempo と **Note** は、この速さを超えたとき、連続した音符が自動的にオルタネイトピッキングになります。おおよその値ですので、BPM200の8分音符でオルタネイトピッキングにしたい場合は、テンポを200より少し下げておくといいでしょう。また、スライダーを一番左にすると、現在のホストのテンポとなります。

Amplifier 画面

Amplifier 画面は、上から右下へと、音が流れていきます。

Pre EQ



Distortion and **Drive** and **Clean**



Post EQ



Cabinet (14 個の EQ)



Stereo



Delay



Reverb



Volume

このような順で音が加工されます。

Pre EQ では、歪となる Drive を通る前の、クリーンなギターサウンドのイコライザーとなります。ギターの音作りといえるでしょう。

Distortion は、音を歪ませることができます。

Drive は、さらに大きく音を歪ませることができます。Distortion と組み合わせて使うとよいでしょう。いくつかのタイプが選択できます。

Clean は、クリーントーンです。独立して歪んでいないクリーントーンのボリュームを調整できます。

Post EQ は、Drive で歪ませた後のイコライザーとなります。

Cabinet は、ON にすると、キャビネットを通したようなサウンドになります。3つの種類+自作の4つから選択することができます。自作 (My Cabinet) は、赤い S ボタンを押すと、詳細画面に移動します。

Stereo は、ON にすると、音が左右に分かれるので、ダブリングのような効果が生まれます。

Delay は、音が繰り返し、ディレイ効果を得ることができます。各ノブの効果は左から、L のタイム、R のタイム、フィードバック、Wet となっています。LR の下のバーは、ON にすると、LR をリンクさせることができます。

Reverb は、音に響きを得ることができます。各ノブの効果は左から、部屋のサイズ、広がり、ダンプ、Wet となっています。広がりを小さくすることで、響きがモノラルになり、Cabinet の箱鳴りのような効果を作ることができます。

Volume は、ここで加工した音のボリュームを調節できます。

2つのEQは、スイッチがついており、ONとOFFを切り替えられます。使用しない場合はOFFにすることで、CPU使用率を抑えられます。また、Driveを0にすると、Post EQはスイッチに関係なく自動的にOFFになります。

Bypass ボタンは、ONにすると黄色になり、この画面で設定した音の加工はすべて無効となり、クリーントーンに戻ります。外部アンプシミュレーターを使用するときは、この**Bypass** ボタンをONにしておくことをお勧めします。

My Cabinet Setting 画面

この画面では 14 個のイコライザーを操作できます。

右に、**R ボタン**が 3 つ、**Freq Random**、**Oct Random**、**Gain Random**、**All Random**、**Relative Random チェック**があります。

R ボタンは、それぞれの値をリセットします。(例えば一番下の R ボタンは、Gain のすべてを 0 に戻します)

Freq Random は、スライダーの値の範囲で、Freq の値をランダムに変化させます。**Oct Random** と **Gain Random** もそれぞれ Oct と Gain をランダムに変化させます。**All Random** は、すべてを変化させます。この時、変化の範囲は、**デフォルト値をもとに**スライダーの値の範囲で変化しますが、**Relative Random ボタン**にチェックを入れておくと、デフォルト値を基にせず、現在の値から相対的に変化していきます。ランダムで音を調整すると、思わぬ変化があり、面白い音ができる場合がありますが、**極端な音が生成される場合もあります**ので、右下の Volume を小さめにしておくことをお勧めします。

この画面の設定のみを、左のボタンで読み込みと保存ができます。

操作方法

SSG7V の操作は、MIDI キーボードまたは DAW から、**キースイッチ**を操作して行います。

キースイッチは、ピアノ鍵盤の最低音である **A-1** から **G#1** に配置されています。

実際に**音を鳴らすキー**は、**A1** から **E7** に配置されています。

音を鳴らすキーを**サウンドキー**と呼びます。**サウンドキー**を演奏すると、**自動でフレットや弦が選択**されるようになっています。もちろん、**キースイッチ**を使用して自分で弦を指定することもできます。

Chord 系は 0 から 12 フレット付近まで、Solo 系は 0 から 24 フレットまで鳴らすことができます。

キースイッチ

まずは、音色を切り替えるキースイッチから説明します。

音色は、大きく分けて 9 種類あります。

音色	キースイッチ
8 度 Power Chord	C1
8 度 Power Chord Mute	C# 1
5 度 Power Chord	D1
5 度 Power Chord Mute	D# 1
Slide Noise	E1
4 度 Power Chord	F1
4 度 Power Chord Mute	F# 1
Solo	G1
Solo Mute	G# 1

それぞれで A2 を鳴らすとこのようになります。

8 度 Power Chord 	5 度 Power Chord 
4 度 Power Chord 	Solo 

ここでいうミュートというのは、ブリッジミュートやパームミュートと呼ばれる奏法のことです。実際に音を鳴らして確かめてみてください。

Chord と Solo、および Mute にはそれぞれ特徴があります。それを説明します。

Chord は、ベロシティが大きくなるほど、ピッキングノイズが強くなります。

Solo は 1~100 までは、ベロシティが大きくなるほど、ピッキングノイズが強くなります。

101~110 は、徐々にチョップ奏法が入ってくるため、アタック感がさらに強くなります。110 でチョップが最大になります。111~127 にかけてはピッキングハーモニクスが混ざるようになってきます。127 で完全なピッキングハーモニクスになります。

下の図を参考にしてください。

Chord	Solo
ベロシティ 1~127 値が大きいほどピッキングノイズが強い	111~127 ピッキングハーモニクス
	101~110 徐々にチョップ
	ベロシティ 1~100 値が大きいほどピッキングノイズが強い

キースイッチ E1 には、スライドノイズが割り当てられています。モジュレーションホイール (CC1) が 0 のとき、2 小節の長さで鳴らされます。127 でのとき、1 拍となります。実際に演奏して試してみてください。

Chord を選択時は、モジュレーションホイールを操作することで、ストロークスピードをコントロールできます。

次に、**B-1~B0**の**キースイッチ**を説明します。
これらは、弦を選択するキースイッチです。

まず、**C0~B0**に**順番に、1弦~7弦**が割り当てられています。例えば、E0を押すと、次に演奏される音は、3弦になります。その音が3弦で演奏できない場合は、その弦に近い弦で演奏されます。

これらのキースイッチと**同時に B-1**を押すと、**弦を固定**できます。例えば G0 と B-1 を同時に押すと、解除されるまで、優先的に5弦で演奏されます。弦固定の解除は、もう一度弦選択キーを押すか、B-1を押すことで可能です。

他にもキースイッチがあります。

C#0は、**Noise OFF**スイッチで、このキーを押している間は、サウンドキーをオフにしたときに鳴る、ノイズサウンドが鳴らなくなります。

A#1は、ベロシティ **64~127**で押したとき、押している間は、Solo ミュートサウンドが全て**ダウンピッキング**になります。ベロシティ **1~63**で押している間は、全て**アップピッキング**になります。通常時は、ダウンピッキングから始まり、**Alternate Picking**で設定された値を超えて音符が連続すると、ダウンピッキングとアップピッキングが交互に繰り返されます。

A#-1 は、**スライドスイッチ**です。このキーを押した状態で、サウンドキーを重ねて配置すると、2つの音がスライドされます。後から重ねる音のベロシティによってスライドの速さを調節できます。スライドキーを放すと、スライドが中断しますので、スライド後も音を鳴らしたい場合は、スライドキーを押したままに配置してください。

A-1 は、**強制停止スイッチ**です。何らかの原因で、音が鳴りっぱなしになった場合に、このキーを押すと、音を止めることができる場合があります。どうしても止まらない場合は、音が消えるまで待つか、プラグインを立ち上げなおしてください。

ユニゾンチョーキング

Solo サウンドで、高いほうの音が 1 弦、または 2 弦の場合に、半音を同時に押すことで、高いほうの音で**ユニゾンチョーキング**ができます。この時、自動で下の音がチョーキングされます。

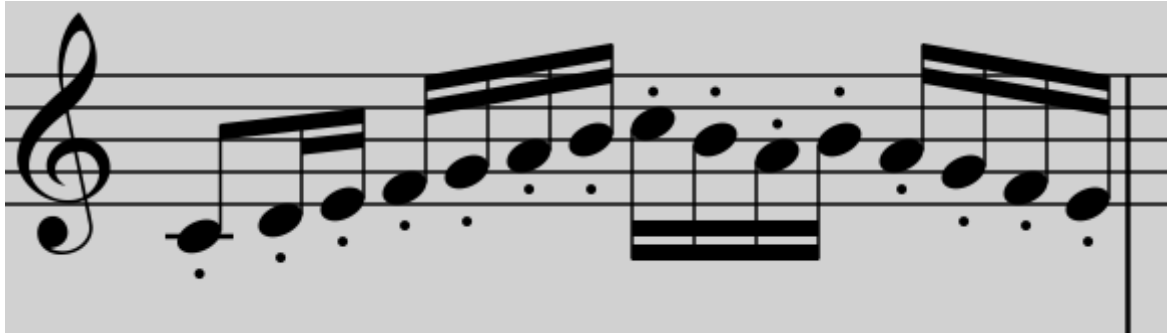
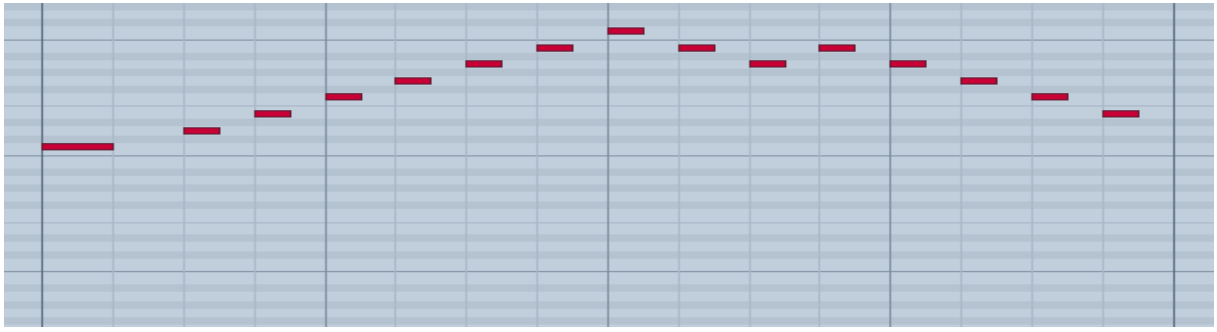
通常時は、バンドは、指定した値でベンディングできますが、ユニゾンチョーキング時は、Up が 1、Down が 2 に設定され、**バンドでも下の音にチョーキング効果を追加**できます。また、**モジュレーションホイール (CC1) でも下向きに半音でビブラート**がかけられます。同じように、**短 3 度と長 3 度のハーモナイズドチョーキング**にも対応しています。

ユニゾンチョーキングを使うには、**Auto Unison Bend** ボタンが ON になってないといけません。

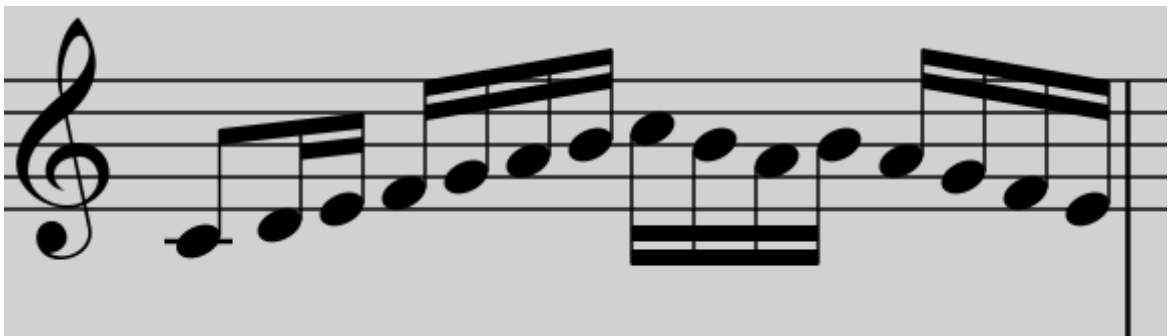
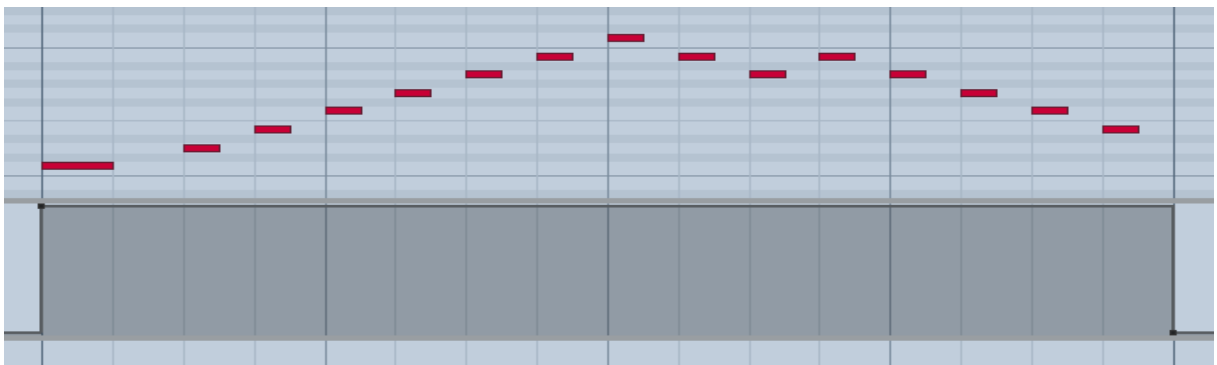
レガート

滑らかに2つの音を繋げるのが、レガート奏法です。方法は2つあり、ひとつは、音色選択のキースイッチ（C1~G#1）を押した状態でサウンドキーを重ねて配置することです。もうひとつは、キースイッチの代わりに、サスティンペダルをONの状態ですべての音を重ねて配置することです。どちらも効果は同じですが、サスティンペダルの効果がありますので、若干違いがあります。

(1)

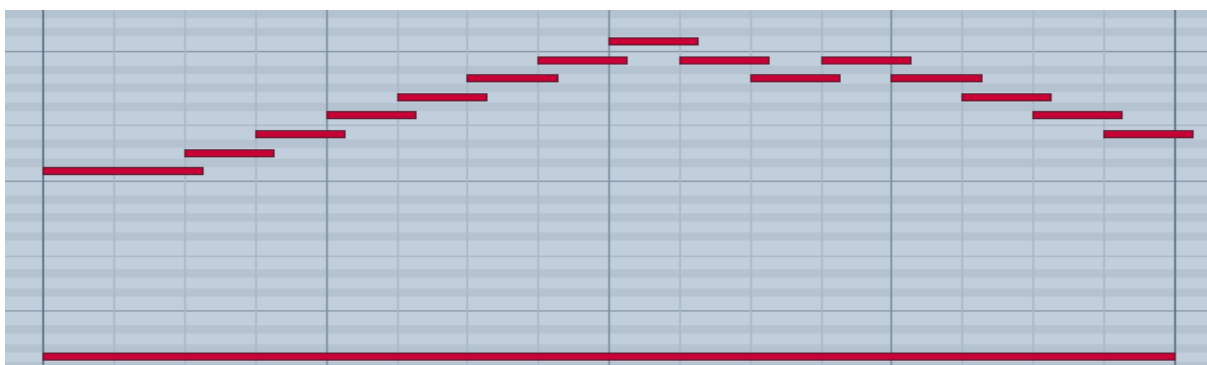
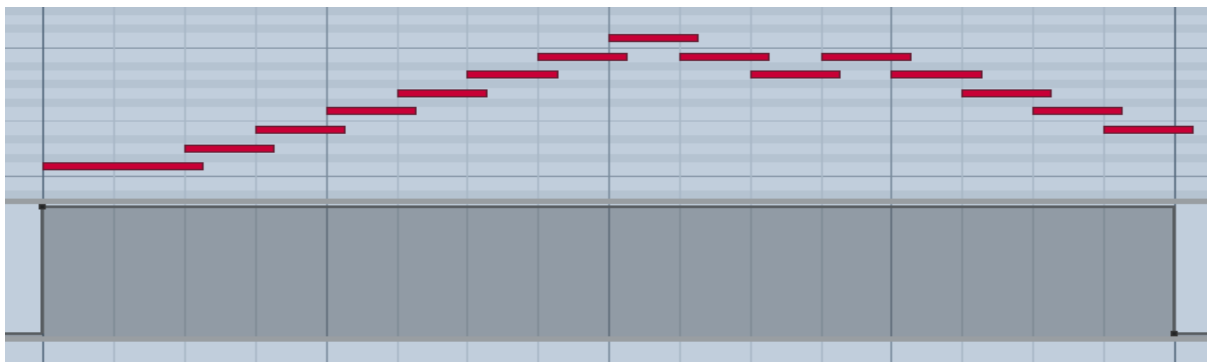


(2)



上の二つは、どちらも、レガートではありません。しかし、(2) はサスティンペダルが ON になっているので、音が普通につながって聞こえます。そして、ピアノのように音は重ならず、次の音が鳴ると、前の音は止まります。

(3)

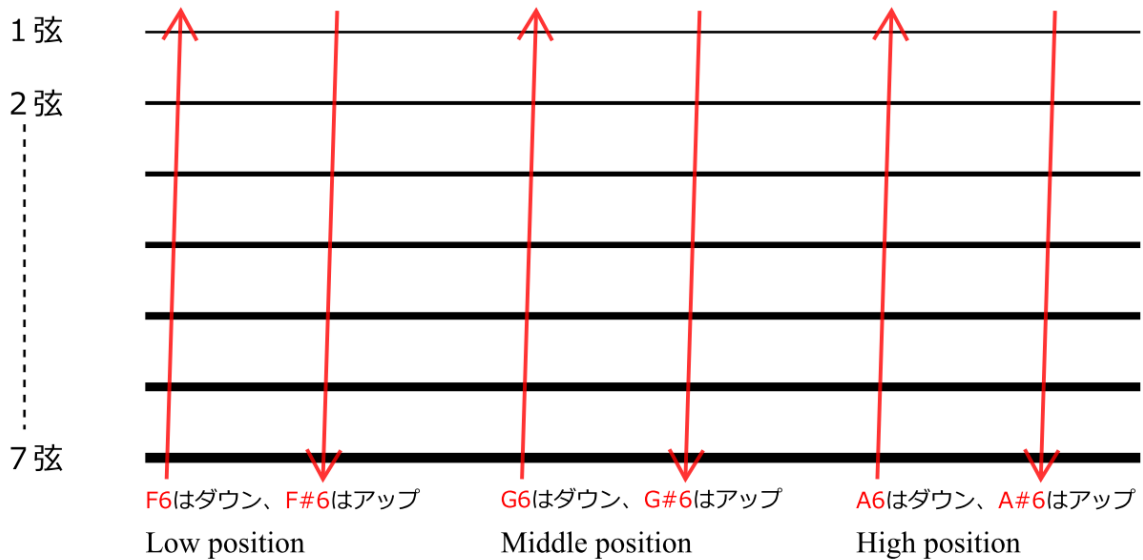


(3) の例では、サスティンペダル、またはキー
スイッチが ON の状態なので、音が重なって配置
された状態で、レガートとなります。

SSG7V ではレガートを優先していますので、アル
ペジオは前提とされていません。ピアノのように
音を重ねながら演奏したい場合は、サスティンペ
ダルを ON にすると、音が逆に重ならなくなるの
で注意しましょう。

ブラッシング

SSG7Vには簡単なブラッシング演奏が可能です。
8度パワーコードミュート（C#1）のF6~A#6
に配置されています。



上の図のようになっています。

チョップ

ソロ（G1）の F6~E7 にチョップが配置されています。F6、G6、A6 は 7 フレット、12 フレット、15 フレット付近の 3 弦に到達するチョップ、F#6、G#6、A#6 は同じように 2 弦に到達するチョップ、C7、D7、E7 は 1 弦に到達するチョップです。Auto Chop を ON にしておくと、7 フレット以上で 3 弦より高い弦に到達するとき、ベロシティが 101~110 でチョップが自動的に入力されます。

FAQ

音にノイズが入ります。



SSG7V はサンプルを使用しないので、CPU の力を必要とします。お使いの PC の能力が追いついていないとき、音にノイズが入ります。**Sound Quality** スライダーを下げてても直らない場合は、申し訳ありませんが、お使いの PC では使用できないと思われます。

SSG7V は 2022 年に Studio Major7th により制作されました。

(C) 2022 Studio Major7th